由来·伝承

金沢市内の奴行列は、加賀藩主が沿岸に出かけた際に伴った奴が由来とされている。

また、江戸時代の「参勤交代」では、大名は | 年ごとに国元と 江戸とを行き来し、加賀藩の場合は2,000人から4,000人が参 加したともいわれ、 | 2泊 | 3日かけて移動した。参勤交代の様 子を伝える「加賀藩大名行列図屏風」には挟箱、台笠などが参 加する姿が描かれている。大名行列は江戸時代の終りととも に行われなくなったが、奴の姿は各地の祭礼の大名行列や奴 行列に見ることができる。

金沢の奴行列は、少なくとも明治20年には大野で行われていたことが確認されている。



加賀藩大名行列図屏風(石川県立歴史博物館所蔵)



所作

単に道具を持って歩くだけでなく、いろいろな所作を行う。 掛け声に続き、逆八の字を描くように摺り足気味に前進し、後 ろ足の踵を思いっきり自分の尻に向けて蹴り上げる(粟崎)。

大将の扇を合図に練りを開始し、道具を受け渡す(大野)。

道具を持つ行列(全団体)と持たない手踊り(金石、五郎島)が ある。

掛け声は、「せいせい、よーやせー」、「あーよいとこさのさ」、「あーこれわいさーのさ」などがある。

意義

金沢の奴行列は基本とされる挟箱・毛槍・立傘・台笠だけでなく、薙刀を伴う。また大野・戸水では挟箱ではなく、御幣(金幣・銀幣)を持つ。

奴行列そのものに関する文書があまり残されていないが、少なくとも明治期には青年団が行う民俗芸能として定着し、その後、五郎島から金石や内灘町に伝わったように各地に伝承していったと考えられる。

祭礼において、奴行列は基本的には神輿行列に付随し、神主 や神輿の先に立って回る先導役であるが、同時に現在に見られ るような掛け声や、道具の受け渡しなどの勇壮さが金沢百万石 まつりでも披露され、独自の発展を遂げ、地域での町づくりや 生涯教育の一環に大きな意味を持つようになった。現在では市 内における重要な民俗芸能となっており、将来にわたり、保存・ 継承していく必要がある。

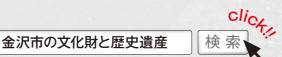




きらめく城下のまち・金澤

金沢市 都市政策局 文化財保護課

〒920-8577 金沢市広坂 | 丁目 | 番 | 号 TEL076-220-2906 F A X 076-224-5046 E-mail :bunkazai@city.kanazawa.lg.jp H24.3発行





域に伝わる民俗調

査事業」の

概

金沢市

0)

して

困難に

0

危機

ら伝わ

る「まつり

」や「風習」などが数多く残って



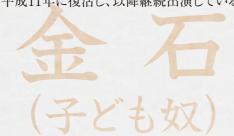
- 毎年、粟崎八幡神社(粟ケ崎町へ49)の9 月の秋季祭に悪魔払い・獅子舞等と共に 神輿に供奉する(平成23年は9月11日(日))。
- ・音頭取り1人を先頭に、挟箱2本(4人)、毛 槍2本(4人)、台笠(タコ)1本(2人)、傘1本 (2人)、薙刀(なぎなた)1本(1人)の縦2列 の隊形で計14人編成。
- ・顔を赤くする(音頭取りは白)。
- ・今もなお、勇壮に道具の投げ渡しを行って いる。
- ・金沢百万石まつりに毎年参加している。



- ·毎年、大野日吉神社(大野町5丁目81番 地)の夏祭りに参加する。奴、榊台・神輿、 悪魔払い、曳山などが続く。
- ・奴は神輿行列に参加する(平成23年は7月 24日(日))。
- ・構成は大将1人を先頭に、金幣1本(2 人)、銀幣1本(2人)、熊毛1本(2人)、毛 槍2本(4人)、三叉鉾1本(2人)、立傘1本 (2人)、台笠1本(2人)、薙刀1本(1人)の 縦2列の隊形で計18人編成。
- ・化粧はしない。
- ・明治20年には奴が存在しており、金沢市 内でも最も古い奴の一つと考えられる。



- ・毎年、大野湊神社(寺中町ハ163)の夏季大 祭に、米上げ、悪魔払いなどと一緒に、神輿 の渡御の行列を先導する形で参加する(平 成23年は8月5日(金)~7日(日))。
- ・構成は幟旗、大奴を先頭に、流し旗1本(3 人)、殿様、挟箱2本(4人)、小槍2本(4人)、 大槍2本(4人)、毛槍2本(4人)、立傘1本(2 人)、台傘1本(2人)、薙刀1本(2人)、幟旗の 縦2列の隊形で計29人編成。
- ・手踊りと道具を持つ行列の2種類行う。
- ・御船町町会が実施する。
- ・小学1年生から中学3年生で構成される。
- ・化粧はしない。
- ・平成11年に復活し、以降継続出演している。





- 毎年、須岐神社(東蚊爪町ホ100甲)の秋祭り に、子供神輿、獅子舞と共に町内を練り歩く(例 年9月23日(祝))。
- ·挟箱2本(4人)、大鳥毛1本(2人)、小鳥毛1本 (2人)、立傘1本(2人)、台笠1本(2人)、薙刀1 本(1人)の縦2列の隊形で計13人編成。
- 顔は青を含む4色を使い、隈取り風で威厳のあ る化粧。
- ・先頭に立つ挟箱が音頭を取り、演技を行う。



- ・戸水八幡神社(戸水町1丁目245)の秋祭で披露す る(不定期開催 平成23年は9月24日(土) その前は平 成14年)。
- ·親方(1人)、金幣1本(2人)、銀幣1本(2人)、大鳥 毛1本(2人)、小鳥毛1本(2人)、中鳥毛1本(2本)、 立傘1本(2人)、台笠1本(2人)、薙刀1本(2人)の 計17人編成。
- ※中鳥毛は先に三叉の剣あり。
- ・親方だけが化粧をする。
- ・今もなお、勇壮に道具の投げ渡しを行っている。





- ・近岡神社(近岡町476)の大祭で、例 年9月23日(祝)に神社にて祭礼が執 り行われ、演舞する(5年に一度)。
- ·構成は親方、挟箱2本(4人)、毛槍2 本(4人)、台笠1本(2人)、立傘1本(2 人)、薙刀1本(1人)の計14人編成。
- ・この年は化粧をしなかったが、粟崎の 影響で顔を赤く塗った年もある。



n

な民俗

財 5

的 な見

地 化 か

調 0)

着物を入れる箱で江戸時代の 武家の外出時にお供が担いだ もの。中に古銭が入っており、 音が鳴る。(写真は五郎島)



槍の鞘の部分が鳥や動物 の毛などで装飾された槍。





③立傘・台笠 立傘は長柄の傘に袋 をかけたもの。台笠は 長い棒の先につけて 袋をかけたかぶり等。 (写真は五郎島)



④金幣・銀幣 祭祀で用いられる幣帛 の一種で、2本の紙垂を 竹または木の幣串に挟 んだもの。 (写真は大野)



布袋をかけてある。 (写真は東蚊爪)



- 祭りの祭礼行事に獅子舞、悪魔払いなどとともに 参加する(平成23年は9月11日(日))。
- ・構成は先頭1人、挟箱2本(4人)、毛槍2本(4人)、 三剣2本(4人)、立傘1本(2人)、台笠1本(2人)、 薙刀1本(2人)の縦2列の隊形で計19人編成。
- ・手踊りと道具を持つ行列の2種類行う。
- ・小学2年生から中学2年生までで構成される。
- ・化粧はしない。
- ・金沢百万石まつりに毎年参加している。

